２０１０年（第４回）

鳥栖・ツァイツ子ども交流事業報告書

平成 22 年 8 月 8 日（日）～8 月 23 日（月）

派遣先：ツァイツ市（ドイツ連邦共和国）

鳥栖市・鳥栖市教育委員会

目　次

＊鳥栖・ツァイツ子ども交流事業参加者名簿 …… 1

＊事前研修 …… 2

＊訪問日程表 …… ３～５

＊ツァイツ市概要及びツァイツとの交流のあゆみ …… ５～７

＊参加者の感想 …… ８～１７

＊日　　記 …… １８～３４

鳥栖・ツァイツ子ども交流事業参加者名簿

引率

鳥栖市市民協働推進課　女性政策国際交流係　係長　佐　藤　敦　美
鳥栖市市民協働推進課　女性政策国際交流係　主査　長　野　稚　佐

団員

生徒氏名		年齢 (4/1 現在)	性別
福光　千晶	FUKUMITSU CHIAKI	１４	女
古賀　鈴乃	KOGA　SUZUNO	１５	女
岡本　佳希	OKAMOTO　YOSHIKI	１５	男
池部　雅人	IKEBE　MASATO	１５	男
吉野　正剛	YOSHINO　SEIGO	１５	男
廣田　駿介	HIROTA　SHUNSUKE	１５	男
名和　長高	NAWA　NAGATAKA	１５	男
リーダー 西山　直希	NISHIYAMA　NAOKI	１６	男
松雪　晴香	MATSUYUKI　HARUKA	１６	女
藤光　祐輔	FUJIMITSU　YUSUKE	１６	男

事前研修

- 5月30日（日）オリエンテーション
  スケジュールについて
  団員自己紹介
  旅行手続説明
  ドイツ滞在中の注意事項

- 6月19日（土）　第1回事前研修
  ドイツ語（アルファベットと綴り）
  ドイツ文化（ドイツってどんな国？）
  研修テーマの検討・決定
  ホストファミリー決定のお知らせ
  送別会の出し物検討

- 6月26日（土）　第2回事前研修
  ドイツ語（挨拶表現、毎日のドイツ語）
  ドイツ文化（東西ドイツと統一ドイツ、強制収容所）
  送別会の出し物決定

- 7月3日（土）　第3回事前研修
  ドイツ語（自己紹介）
  ドイツ文化（環境と福祉、ドイツの学校(受験・休暇)）
  送別会の出し物の練習
  日記の担当者決定

- 7月10日（土）　第4回事前研修
  ドイツ語（町で使うドイツ語(買い物、集合場所など)）
  ドイツ文化（英語とドイツ語はどんな関係）
  送別会の出し物の練習

- 7月17日（土）　第5回事前研修
  ドイツ語（自己紹介のリハーサル）
  ドイツ文化（ドイツでの暮らし、ホームステイに関する質問）
  送別会の出し物の練習
  結団式・解団式・事後研修・報告会の日程決定

- 7月31日（土）　第6回事前研修
  送別会の出し物の練習
  本研修前の最終確認（持参品、日記、報告書など）

結団式　8月6日(金)

本研修 8月8日(日)～8月23日(月)

解団式 8月23日(月)

事後研修 8月28日(土)

研修テーマのまとめ
報告書作り

報告会 9月18日(土)

訪問日程表

月日	時間	内容	移動方法	備考
8月8日(日)	8:30	福岡空港国際線集合	各自	
	10:30	福岡空港出発(KE788便) / ～11:55 仁川(インチョン)国際空港到着	飛行機	
	14:05	仁川(インチョン)国際空港出発(LH713便)	飛行機	
	～	(△7時間の時差)		
	18:45	フランクフルト空港到着/～21:50 入国手続		
	21:50	フランクフルト空港乗継/出発(LH1110便)	飛行機	
	22:45	ライプツィヒ空港到着 ツァイツ市・受入家庭出迎え/各家庭へ	自家用車	ホストファミリーと一緒
8月9日(月)	11:00	ツァイツ市役所　市長表敬訪問		
		ツァイツ市役所見学(市役所の塔登り)		
	12:30	(昼食:レストラン)		
	13:30	ツァイツ市内の散策	徒歩	
	15:00	ボウリング		ホストファミリーと一緒
	17:00	解散・受入家庭へ帰宅		
8月10日(火)	8:00	レーベックセンターの見学・版画体験		
	10:00	モーリツブルグ城の見学		
	12:00	(昼食)「騎士の食事」～中世のドイツの食事～		
	13:00	大聖堂の見学とパイプオルガンの演奏		
	14:30	モーリツブルグ城内公園と日本庭園の見学		ツァイツ市学生と一緒
	16:00	解散・受入家庭へ帰宅		
8月11日(水)	8:00	エンツマン社訪問		
	10:15	ブロホヴィッツ社訪問	徒歩	
	11:45	(昼食:チャイナレストラン)		
	13:00	エネルギー会社訪問	大型自動車	
	14:15	地下ツァイツの見学	大型自動車	
	16:00	カヌー協会の見学	大型自動車	
	17:30	解散・受入家庭へ帰宅		

月日	時間	内容	移動方法	備考
8月12日 (木)	8:09	ツァイツ駅出発⇒ハレ市へ	電車	
	10:00	先史時代の博物館の見学	路面電車	
	12:00	(昼食:博物館内のレストラン)		
	14:30	ショッピング	徒歩	
	17:22	ハレ駅出発⇒ツァイツ市へ	電車	
	18:45	ツァイツ駅到着・解散・受入家庭へ帰宅		
8月13日 (金)	10:00	修道院跡の見学	徒歩	
	11:00	ヘーリッヒさんと料理(じゃがいもスープ)	徒歩	
	12:00	(昼食)/ワイン畑の見学		
	15:00	青少年の家でツァイツ市の学生と交流(ゲーム・歌)	徒歩	ツァイツ市学生と一緒
	夕刻	キャンプファイヤー(クニュッペルケーキを焼く)		
	21:00	解散・受入家庭へ帰宅		
8月14・15日 (土・日)		ホストファミリーと自由行動		
8月16日 (月)	8:30	幼稚園訪問	徒歩	
	10:00	小学校訪問	徒歩	
	12:00	(昼食:小学校の食堂)		
	13:00	職業学校訪問	徒歩	
	14:30	市民大学訪問(陶芸体験)	徒歩	
	16:00	解散・受入家庭へ帰宅		
8月17日 (火)	8:00	ワイマール市へ出発	専用バス	
	10:00	強制収容所跡のブーヘンヴァルト記念館の見学		
	13:00	(昼食:チューリンゲン地方のソーセージ)		
	13:30	ワイマール市内の散策/ショッピング	徒歩	
	15:30	ゲーテの家訪問		
	17:00	ワイマール市出発	専用バス	
	18:30	ツァイツ市到着・解散・受入家庭へ帰宅		
8月18日 (水)		各ホストファミリーの学生が通う学校へ ※同じ教室で、授業を受ける		ツァイツ市学生と一緒
8月19日 (木)	10:00	風車の見学/ダニチーズの見学	大型自動車	
	13:00	(昼食:魚料理のレストラン)		
	14:00	青少年の家でツァイツ市滞在に関するアンケート /フリータイム	徒歩	
	15:30	解散・受入家庭へ帰宅		
8月20日 (金)	9:00	パントマイム体験		
	12:00	(昼食:青少年の家の食堂)		
	13:00	送別会出し物の練習		
	15:00	解散・受入家庭へ帰宅・滞在		
	18:00	ツァイツ市関係者及びホストファミリー等で送別会		ホストファミリーと一緒
	22:00	解散・受入家庭へ帰宅		

月日	時間	内容	移動方法	備考
8月21日 (土)		ホストファミリーと自由行動		
8月22日 (日)	13:00	ライプツィヒ空港集合・待合/搭乗手続	自家用車	ホストファミリー見送り
	14:50	ライプツィヒ空港出発(LH1107 便) /～15:50 フランクフルト空港到着	飛行機	
	18:15	フランクフルト空港乗継/出発(LH712 便)		
8月23日 (月)	〃	(時差 +7時間)		
	11:35	仁川(インチョン)国際空港到着/乗継		
	14:15	仁川(インチョン)国際空港出発(KE789 便)	飛行機	
	15:35	福岡空港到着/入国手続き・荷物受取		
	16:00	福岡空港出発	貸切バス	
	17:00	鳥栖市役所到着/解団式		

ツァイツ市概要

位　置

ツァイツ市はドイツの北東部にあるザクセン・アンハルト州の南端にあります。

ツァイツ市はライプチッヒの南西４２ｋｍに位置し、ライプチッヒ空港まで車で約１時間ほどです。

面　積

約 25ｋ㎡

人　口

約３２，０００人

特　徴

●交通の要所

ツァイツ市は、２つの高速道路 A9、A4 が近くを走り、市内で B2、B91、B180 の３本の国道が交差しています。鉄道は、ライプチッヒ - ゲラ線が通っており、交通の便がよい街です。

●主な工業

化学工業が最も盛んであり、機械工業、環境工学、採炭工業、サービス業があります。

歴　史

967 年、ツァイツが Cici の名前で文献にでています。中世の頃、司教の居住地として栄え多くの歴史的建造物が作られました。

19 世紀半ばに、石炭鉱業が盛んになり、1900 年代前半には、化学製品やピアノ、乳母車、褐炭処理機械が世界中に輸出されました。

1936 年フッペルのピアノ製造工場がピアノ製造を停止、戦後工場は閉鎖されました。

1949～1990 年ドイツ民主共和国（東ドイツ）に属し、計画生産のもと多くの工業が盛んでした。

1990 年東西ドイツ統一。

ツァイツとの交流のあゆみ

年	月	主な内容
1998	10	朝日新聞鳥栖通信局の記者が、フッペル社がドイツのツァイツ市にあったことを確認。
1999	3	「映画『月光の夏』を支援する会」事務局長が鳥栖市長の親書を携えツァイツ市を訪問。朝日新聞鳥栖通信局記者が同行。
	5	ツァイツ市長から交流を推進したいと返信がある。
2000	3	「鳥栖こどもピアノコンクール実行委員会」が、受賞記念コンサートに、ツァイツ市音楽学校校長及び生徒２名とツァイツ市職員を招待。
2001	4～5	「鳥栖こどもピアノコンクール実行委員会」代表、コンクール受賞者２名、秘書広報課長がツァイツ市を訪問。
2002	3～4	ツァイツ市長、学校文化局長が鳥栖市を訪問。今後の交流及び 2004 年庭園博覧会の日本庭園整備に対する技術協力について協議。
	6	市報でツァイツ市との文通希望者を公募。随時、希望者に手紙を配布し文通が始まる。
	6	鳥栖市緑化協力会会員２名と広報広聴課長が、ツァイツ市を訪問。日本庭園整備のための現地調査を行う。
2003	5～6	鳥栖市緑化協力会会員４名をツァイツ市へ派遣。庭園博覧会会場内に日本庭園完成。
2004	7	鳥栖市長を団長する総勢１７名の訪問団がツァイツ市を公式訪問する。また、庭園博覧会“日本の週”で日本文化を紹介する。
2004	8	鳥栖市の中学生 10 名、引率３名がツァイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活や学校などを体験。
2005	4	ツァイツ市長をはじめとする４名が鳥栖市を公式訪問。企業視察、伝統文化体験、市民との交流を深め、教育、スポーツ分野での交流について協議。
2005	5	ツァイツ市の学生 10 名、引率２名が鳥栖市を訪問。ホームステイにて日常生活や学校・日本文化を体験。
2006	1	フッペル平和記念鳥栖ピアノコンクール受賞者がツァイツ市を訪問。ツァイツ市芸術発表会で演奏をするなど、音楽を通じて交流を深めた。
2006	8	鳥栖市の中高生 10 名、引率３名がツァイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活を体験。

年	月	主な内容
2006	10～11	ツァイツ市の芸術家が、鳥栖市緑化協力会の協力により東公園（ドイツエリア）にモニュメント「月への 28 の望み」を制作。
2006	11	鳥栖市議会議長をはじめとする 5 名がツァイツ市を公式訪問し、議会や環境についてなど意見交換を行った。
2007	5～6	ザクセン＝ツァイツ公国 350 年祭に招待を受け、鳥栖市、フッペル平和祈念鳥栖ピアノコンクール実行委員会、鳥栖市文化連盟の代表者らが公式行事に参加。また、フッペル平和祈念鳥栖ピアノコンクール受賞者が招待客らを前に演奏をした。
2007	7～8	ツァイツ市の学生 10 名、引率 2 名が鳥栖市を訪問。ホームステイにて日常生活や学校・日本文化を体験。
2008	3	アンナ・マグダレーナ・バッハ音楽学校マティアス・ブッタナー校長及び学生２名が鳥栖市を訪問。音楽学校生徒２名がピアノコンクール受賞者記念コンサートに出演し、音楽を通じて交流を深めた。
2008	7～8	鳥栖市の中高生７名、引率２名がツァイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活を体験。平和交流の一環として、ワイマール市にある強制収容所跡のブーヘンヴァルト記念館を見学。
2008	7～8	鳥栖市長及び随行１名がツァイツ市を訪問。両市の新市長就任により初対面。子ども交流事業の期間中でもあり、子どもたちの交流を一緒に体験することができた。
2009	6～7	ツァイツ市の学生９名、引率２名が鳥栖市を来訪し、ホームステイにて日常生活や学校・日本文化を体験。
2010	7	第１回ツァイツ市砂糖祭に招待を受け、ツァイツ市を訪問。鳥栖市長の代理として鳥栖市副市長、鳥栖市議会議長らが公式行事に参加。
2010	8	鳥栖市の中高生１０名、引率２名がツァイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活を体験。平和交流の一環として、ワイマール市にある強制収容所跡のブーヘンヴァルト記念館を見学。

団員の感想

２週間、ツァイツ市へ行って

福光　千晶

ドイツでの２週間、長いようで短く夢を見ているような生活でした。ドイツへ行く途中の飛行機では、ホストファミリーと仲良くできるか、英語をちゃんと話せるかなど、とても不安でした。けれど、ライプツィヒ空港に着くと、夜の１１時だというのに、ホストファミリー全員が迎えに来てくれていたので、不安も少し消え、うれしくなりました。

ホストファミリーとの会話は、主にジェスチャー入りの英語でした。ジェスチャーは簡単そうにみえるけれど、実際にやってみると難しかったです。同じ動作でも、ドイツと日本では意味が全く違う事もあるので、相手を傷つけないように、一度頭で考えて行動をするのは思った以上に大変でした。でも、ジェスチャーなどで相手に通じた時は、とてもうれしかったです。

ツァイツ市のプログラムは、ハードで毎日がとても充実していました。驚いた事や学んだ事が多く、なにより楽しかったです。驚いた事は、飲料水に炭酸が入っている事や学校が終わるこのが１３時ぐらいだという事です。また、テレビを見る時など電気を消し部屋を真っ暗にしていたので、明るい部屋と暗い部屋、どちらが好きか聞くと暗い部屋が好きと言っていました。後でドイツの方に「ドイツの人は暗い方を好む人が多い。」と聞き、驚いたと同時に異国文化の違いを感じました。

私はドイツに行けた事を誇りに思います。一緒に行った団員の方は私にとって、お兄さん、お姉さんの存在で、とても優しく接してくださいました。ホストファミリーは本当の家族のようで休日には、サーカスなど色々な所へ連れて行ってくださいました。このような経験をさせてくださった鳥栖市役所のみなさん、ツァイツ市のみなさん、ありがとうございました。心から感謝します。この経験を私の将来に生かしたいと思いました。

発見と感動のホームステイ

古賀　鈴乃

このツァイツ子ども交流事業は、貴重な経験を私に与えてくれた。

ドイツに行く前、一番不安だったのはホームステイの事だった。受け入れ先の家族とうまく会話できるか、なじめるかどうか、正直不安だった。空港まで迎えに来てくれたのは、お父さんと今度日本にくるアミだった。しかし、私よりも１歳下に見えないアミの大人っぽさに、メールで見た写真との違いになぜかすごく緊張してしまった。帰りの車の中でアミが一生懸命英語で話しかけてくれているのに、あまり喋れず車内は暫く無言が続いてしまい、一瞬家に帰りたいと思ってしまった。私は最初は、あまり自分の本当の気持ちを言わずに遠慮してしまうので、ドイツの自分の気持ちをはっきり言う文化に、初めなじむ事ができなかった。だが、日本から来た私にホームステイの家族は優しく接してくれ、すぐに、自分の言葉で自分の気持ちを主張できるようになった。そして、お父さんの作る晩ご飯は、すごくおいしかった。家族は土曜日にはライプツィヒ、日曜日にはベルリンにまで連れて行ってもらいベルリンの歴史を学び貴重な体験もでき、楽しかった。

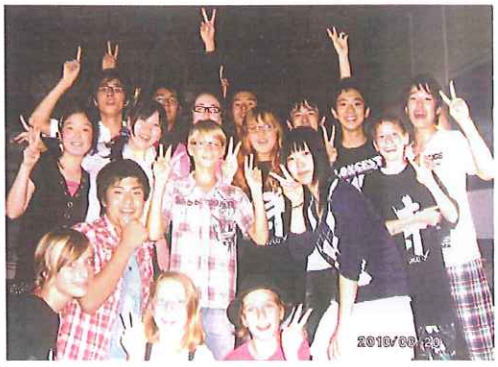
そして、ツァイツ市役所の企画でも日本ではできない体験をする事ができた。私が一番心に残っているのは、モーリツブルグ城のピアノと、教会の大きなパイプオルガンを弾いた事だ。特にパイプオルガンを弾いた時は、教会中に綺麗に音が響き渡ったのを全身で感じた。私は改めて、ピアノを習っていて良かったと思った。

そして、初めて食べたダニチーズは意外にとてもおいしかった。日本ではダニをチーズにするなんて考えもしなかったので、顕微鏡で動いているダニを見た時はすごくおもしろかった。他にもキャンプファイヤー、家族とのボーリング、騎士の食事でのコスプレなど思い返せば楽しい思い出ばかりだった。

ドイツでの生活は、毎日が発見と感動の連続だった。チョコレートがすごくおいしかったのも良かったし、とても刺激のあった２週間だった。できれば、もう一度ホームステイの家族に会いたいと心から思った。

この２週間で、私はドイツと日本の文化の違いをとても感じたと同時に、私は日本人として、もっと日本の文化を学ばなければいけないと強く感じた。

そして最後に、私をツァイツ子ども交流事業に参加させて頂き、本当にありがとうございました。これから、この経験を自分の将来に役立てていきたいと思う。



今までで最高の１５日間

岡本　佳希

８月９日から２３日まで、僕はホームステイをした。鳥栖市とツァイツ市の姉妹都市による企画だった。僕がこれに応募したのは締切の数日前で、あまり気持ちも乗っていなかった。しかし、実際にツァイツに行ってみると、また帰りたくなるような町だった。

ツァイツに行っての一番の財産は、ホストファミリーを含めたツァイツの人達と知り合うことができたことだと思う。最初に空港に到着したときのツァイツの人達の歓迎ムードは、今でもはっきりと思い出すことができる。また、その時に自分がどれだけ不安な気持ちだったかということも、はっきりと覚えている。本当に二週間やっていけるのか、そういう思いでいっぱいだった。

しかし、そんな心配もすぐになくなった。最初の土曜日に、ファミリーの方たちが村の祭りに連れていってくれた。そこでは、僕のホストファミリーであるリセッテと、リセッテの友達と、朝から深夜まで遊んでいた。みんなは、僕に積極的に話しかけてくれ、その日一日で打ち解けることができたと思う。初めて会った人と話すのが苦手な僕にとって、とてもありがたかったし、嬉しかった。この日から、僕はドイツの人々との壁が取り除かれたかなと思う。

二週目の水曜日には学校に行った。土曜日に知り合ったニクラスもいたので、なんだか嬉しかった。この学校訪問では、リッセッテ、ダリオ、アニカに本当にお世話になった。

この二週間はとても楽しかった。土曜日に行った祭り、学校訪問、ドイツの学生達とのたくさんの交流、キャンプファイヤー。とても数え切れないほどの思い出ができた。だけどその分、別れる時は本当につらかった。ホストファミリーの中でも特に仲良くしてくれたリセッテ、ダリオ、アニカとの別れは特につらかった。みんなとは、また来年会える。その時に少しでもドイツ語を話せるようになれたらいいと思う。そして、近い将来、ツァイツに帰ることができたら最高だ。

握手の魅力

池部　雅人

今回のドイツ研修で、日本と違うあいさつの仕方に興味をもった。それは、あいさつの時に握手をすることである。

ドイツで、たくさんの握手をして、手の大きさやぬくもり、握る強さ、握手にかける時間が一人一人違うため、その人がどんな人なのか知りたくなるということに気づいた。私は、握手を通じて、あいさつってなんて素敵なんだと思った。

又、私はあいさつ以外の握手も経験した。それは、送別会で共演したドラム演奏者との握手である。その方とは、３回ほど握手をしたが、３回とも、その握手で伝えたい気持ちは違っていた。１度目は、舞台裏での演奏前の軽い握手。２度目は、演奏後のお互いを讃え合った力強い握手。３度目は、「君は僕の友達だ。」と言われ、差し出された握手だった。相手のドラムの一定のリズムに、自分のビートボックスを自由に重ねた短い時間だったが、私にとって大きな思い出となった。

言葉は上手く話せなかったけど、握手や音楽を通じで、たくさんの人達に気持ちを伝えることができたと思う。これをきっかけに、日本でも一つの一つの出会いを大切にするため、自分から握手をしていきたい。

ドイツへ行って

吉野　正剛

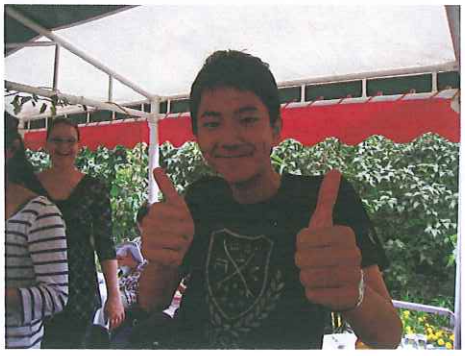
８月８日、僕は飛行機の中でキンチョーしていました。日本を出発する時には心配は全くしていなかったのに、ホームステイ先の家族に会う直前になってドキドキしはじめて、「会った時に何て言おう？」とかを必死で考えていました。緊張しながら飛行機をおりると、待ってくれている方々の中に「歓迎」と書かれた大きな布を持っている一団が。「気合い入っているなー」と感心しながら歩いていくと、布の下の方に「Ｓｅｉｇｏ」の文字。自分の所の家族をさがす前に見つけてしまいました。驚いているうちに、いつの間にか車に乗って家へ向かっていました。車の中では寝てしまって、ほとんど話すことができませんでした。

そんなこんなで緊張の１日目がおわり、ツァイツ市長の前で自己紹介などもして、どんどん日数が増えていくうちに、最初はなかなか聞きとれなかった英語が理解できるようになっていました。

ドイツには、日本と全く違う文化があって、それに慣れるのは大変でしたが、ドイツの文化に慣れることで、日本に帰ってきた時に「日本」という国を新しい視点で見ることができるようになったと思います。

２週間のドイツでのホームステイは、大変だった事やとまどった事もあったけれど、本当に楽しかったし、とても貴重な経験になったと思います。

最後に、この交流事業にかかわった人たち、ツァイツ市の方々、ホームステイ先のレスラー家のみなさん、そしてこの事業に参加させてくれた両親、本当にありがとうございました。２週間とても楽しく過ごすことができました。



ホームステイを終えて

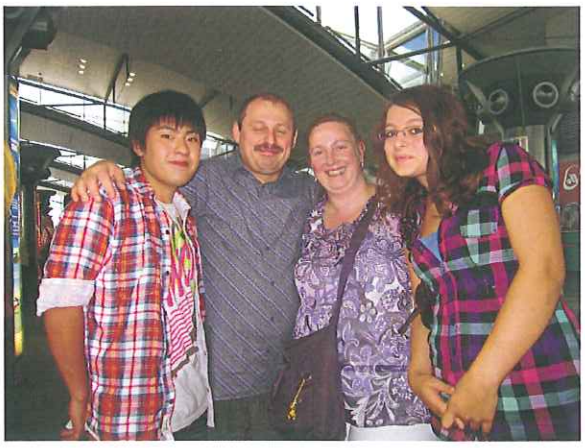
廣田　駿介

もちろん、今回が初めてのホームステイだったので不安と期待とで胸が張り裂けそうな状況で始まった、ホームステイだった。ファミリーのみんなは、姉以外全く英語が話せなく、ドイツ語だけでの会話となり始めの方は、なかなかスムーズに話せなかった。なにかとドイツ語で話しかけてくれることは嬉しかったのだが、3日目くらいまでは、それがストレスにしか感じなかった。昼間は、日本人どうしの日本語の会話があったので、追いつめられる事はなかった。もし、放り込まれただけであったなら苦痛だけとなっていたかもしれない。会話の面では、英語が出来る家庭であったなら良かったなぁ、と何度か思ったが、言葉が通じないという良い経験となると同時に、ドイツ語を勉強するチャンスとなったから、ドイツ語の家庭で良かったと断言できる。ただ、辞書は必須。

ドイツに行く前は、相手の家庭との組み合わせが少しおかしいと思った。ホストシスターは姉との二姉妹で、自分は弟二人の三兄弟。しかも、男子校出身。周りのメンバーを見ても、僕は優先的に男子と組み合わされるべきだった。しかし、このペア。これが、大きな心配の要因だった。でも、思ったより困ることなく生活できたので悩みの種が消えた。最後は、兄妹のように仲良くなれて楽しかった。

そして、最大の心配点は、食文化の違い。米が食べれない事が不安だった。まぁ、実際はパンがおいしかったので、米が恋しいというような状況にはならなかった。ただ、夕ご飯に温かいものがでないことと、野菜が全くと言っていいほどに出なかったことは悲しかった。これだけは慣れることが出来なかった。残念。やっぱり、ジャガイモとソーセージはとても美味しく、日本に持って帰りたかった。ドイツの食べ物サイコー。意識の中では、ドイツの食べ物で全然大丈夫だと思っていたのに、市民大学で緑茶の匂いを嗅いだ瞬間に和んだことに気づいて、日本人であることを自覚。

ホームステイに行って学んだことは、人種は違うけれど同じ人間だという事。少し、歯が浮くようなセリフだが、実感したことの一つだ。



特に、学校訪問の時。学校の友達とみんなで遊んだことは、良い思い出だ。日本人だから、ドイツ人だから、などということは全く無かった。他にも、たくさん印象に残っている事があるが、やっぱり人との繋がりが一番の思い出となった。

今回のホームステイは、とても貴重な体験だった。ドイツに第二の家族が出来たようで、とても嬉しい。今から、来年が待ち遠しい。

ドイツの想い出

名和　長高

僕がドイツで最初に戸惑ったのは、食生活の違いだった。

今回のドイツ訪問は僕にとって２回目だったが、１回目の時は５才でまだ小さく「ソーセージがおいしかった！」くらいの記憶しかない。

まず、驚いたのは量の多さで、慣れるには時間がかかった。初日の朝食で、フランスパンが１本１人分だと出された時は、さすがに見ただけでおなかいっぱいになった。残すと失礼だし、勧められたら断れないし･･･。しかし、いらないならいらないとはっきり断らなくてはいけないというのがドイツの文化。ようやく、それも英語で「enough･･･」が言えるようになるまで３日かかった。

また、和食に慣れている僕の胃は、肉とパンの消化に時間がかかり、なかなかおなかがすかなかった。

ドイツは日本に比べてとても涼しく、過ごしやすかった。１５日間の滞在中、雨が多かったが、晴れた日の小高い丘の上から眺めたツァイツ市内はとても綺麗で、何枚も写真を撮った。帰ってきてからホームステイ先とのメールのやり取りで、鳥栖の気温が３６℃だと聞いたビッキーは、来年日本に来るのに、何を着てきたらいいかと今から心配している。

ツァイツ市のホームステイはとても良い想い出ばかりで、このように楽しく過ごせたのも受け入れていただいたツァイツ市の方々のおかげだと思う。ホームステイ先のザルツマン家の皆さんは、僕に本当の家族のように接してくれて嬉しかった。市民の方々も優しくしていただき、感謝の気持ちでいっぱいになった。

僕は、いつかまた、ツァイツに戻りたいと思う。そのためには、まずは、ドイツ語の勉強をしたいと思う。今回の滞在中は、たどたどしい英語のやり取りで、あたふたする事が何回かあったので、しっかりドイツ語を勉強して普通に会話ができるようになりたい。

このことが、今回、ドイツに行って僕の夢に新しく加わった。

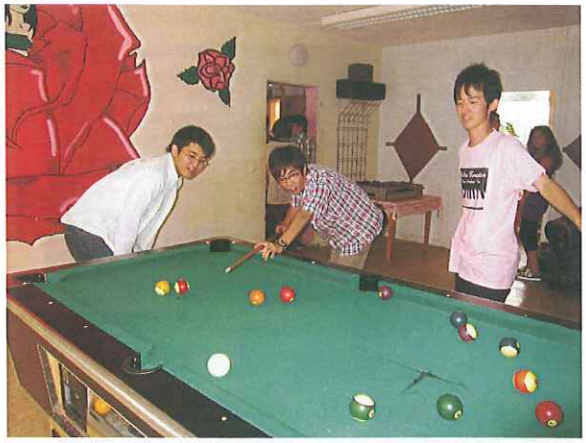
憧れのヨーロッパに触れて

西山　直希

２週間のドイツ研修はとても有意義なものでした。日本とは全く違う空気を肌で感じられたことはもちろんですが、僕にとって刺激的だったのは、ドイツに住む同年代の学生と触れ合えたことでした。僕が、ステイした先のマックスという男の子は、見た目こそ煙草とビールと黒い服で武装した不良ですが、検事になりたいという夢を持っている正義感でした。僕は、ドイツに対して先進的な制度を取り込れた理想郷のようなイメージを持っていました。研究者と職人を別のカリキュラムで教育するマスター制も方向性としては間違ってはいないと。しかし、実際に見るツァイツの街はたくさんの落書きが伝染病のようにそこかしこにありました。マックスは、「あの落書きは、マスター制の落ちこぼれたちが書いている」と言っていました。彼が、どういう気持ちでそう言ったのかは分かりません。でも、僕はどんな世界にも少なからず問題がある、ということを思い知った瞬間でした。

暗い話ばかりになりましたが、もちろんドイツは素晴らしい所でした。一生住みたいくらいに。一番気に入ったのは、ドイツの夕焼けでした。僕がステイした家は丘の上にあり、そこからは、平原に立つ風力発電機が見えたのですが、その風車が夕焼けの中に黒く浮かび上がる様は、言葉にできないほど美しかったです。研修で行った教会などの古い建築物も京都のような歴史の迫力に満ちていて圧倒されました。

僕が、ヨーロッパが素晴らしいと思う点は、そういう歴史ある建物を大事に保存するだけではなく、実際に使っていることだと思います。例えば、日本だったら重要文化財レベルであろうツァイツの市庁舎に普通に市民が出入りし、その価値を共有している。とても良いことだと思います。前に、ニュースで見たのですが。イタリアであった国際会議の会場には、世界遺産の建物が選ばれていた。それなりの、弊害も伴うでしょうが、大事なことだと思います。なぜ、ツァイツの中心部は今も石畳なのか、なぜ走りやすいアスファルトにしないのか、きっとそれは、便利さよりも大事なことがあるからだと思います。



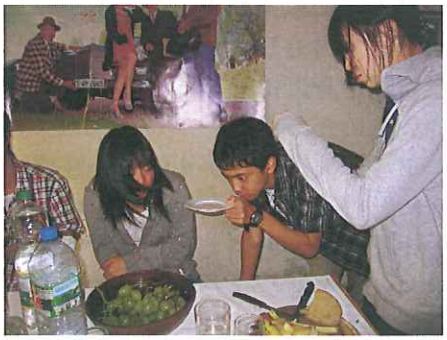
ドイツで学び感じた事

松雪　晴香

私は小学生の頃から外国というのに憧れていました。三度ほど外国に行けるチャンスがあったのですが、三度とも行けませんでした。だから今回の鳥栖・ツァイツ交流事業で行ける事が決まった時は、とても嬉しかったのを今でも覚えています。

ドイツに行ったことで、私自身学んだ事は、人と人とのコミュニケーションです。コミュニケーションをとるための言葉が違うという状況で、どのようにコミュニケーションをとるか・・・これが私には最初よく分かりませんでした。英語は世界共通語とはいいますが、私は苦手でまともに会話する事もできません。ですが、この交流事業で分かった事・・・それは、コミュニケーションに言葉は関係ないという事です。まったく関係ないとは言い切れない部分もあります。けれど私は、英語が苦手でも、別れの時は涙が出るほどまでホストファミリーの事が大好きになっていました。もちろん、ホストファミリーの方も涙を流していました。私の言葉がどれだけ伝わっていたかは分かりません。けれど別れを悲しんでくれた、それは確かです。身振り手振りで必死に伝えようと努力するだけで、相手にはきちんと伝わるんだという事が、私が今回の交流事業で分かった事です。

また、ホストファミリーだけでなく、ツァイツ市の人々や共に行った９名のメンバーとも仲良くなる事が出来ました。これもまた、私にとってはいい経験でした。

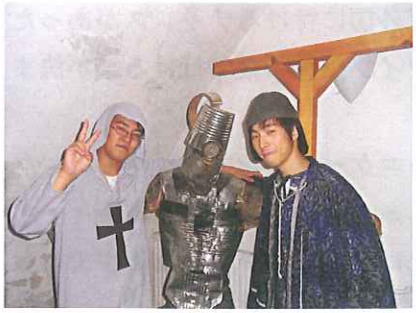


ツァイツ市の方々が考えて下さったプログラムでは、２週間という短い期間でもツァイツの事、ドイツの事を知る事ができました。知って学ぶだけでなく、いろいろ体験までさせてもらったりと、とても楽しむ事ができました。ただ、ダニチーズが・・・日本でダニチーズ色の砂を見るだけで、全身に鳥肌が立つのが分かります。高級品らしいですが、もう見たくない・・・それが本音です。でも、それもある意味いい思い出です。きっと忘れる事が出来ないと思います。

ダニチーズの話題で終わるのもどうかと思いますが・・・２週間という期間の中で、予想以上に多くのものを得る事が出来ました。文化の違いに、戸惑いや苦痛を感じる事もありました。歴史のある建造物に感動した事もありました。遊びに夢中になる事もありました。いろんな事がありましたが、とても充実した２週間でした。鳥栖・ツァイツ交流事業に携わった市役所の方々、両親には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。Danke!

ドイツ２週間の経験記

藤光　祐輔



ドイツへ行って本当によかった。なにより楽しかったし、学ぶべきものも学べたと思う。ドイツでの会話は英語だったが、それでも自分の話す英語がホストファミリーに通じたことは本当にうれしかった。言葉も文化もバックグラウンドも大きく異なる遠く離れた国の人と分かり合えたことのすばらしさ、うれしさは言葉にできないものがあった。初日はドイツ人の大きさに圧倒されたのと、自分の英語に自信がなかったことでなかなか上手くコミュニケーションがとれなかったが、キルシュバウム家のみんなはゆっくり話しかけてくれたし、僕の言葉が出るまでにこやかに待ってくれたこともあって、上手く会話が出来るようになった。強烈だったものといえば、ナチス強制収容所。日本の原爆とは異なる人間の残虐性をみた。見ていい気はしないし、負の遺産だが見ておいてよかった。人体博物館にも行った。これは前に日本にもやってきていて、あまりにも強烈だったので反対運動が起きたほどだった。全ての人体模型は皮が無くて少しグロテスクではあったが、個人的には interesting の意味で面白かった。それにドイツではかなり人気があるみたいで来ている人もかなりいた。ダニチーズも強烈だったが・・・言葉に出来ない強烈さだった（チーズは無論、工場のおじさんもなかなかだった）。そして謎の現象、その名も手ぶれ現象。強制収容所と教会のキリストの接写だけは手ぶれが止まらないというちょっとしたホラーも経験。今回は天気に恵まれず、雨が多かったがそれでもいろいろ見ることが出来た。乗馬もしたし、カヌーも乗った。車や大型の船とは違って、こう自然を身近に感じることが出来た。特に馬の背は温かくて気持ちがいいものだった。

ドイツ人はとにかく好奇心旺盛で何でも日本の文化、習慣、言葉について何でも聞いてきた。そのたび僕は答えたし、彼らはドイツについて何でも教えてくれた。僕はその文化等の違いを大いに楽しむことができたし、興味深くもあった。ただ一つだけ大きく日本人と異なると思ったのはユーモアセンスだ。僕はホストファミリー宅でユーモアセンスの違いについて話していた時、一向にドイツ人のユーモアさが理解できなかった。逆に日本人の「お笑い」はドイツ人には理解できないようだった。「ジャーニーイングリッシュ」という Mr. ビーンの出演している映画を一緒に見たが、笑う場面が少し異なるようだった。日本人からすると笑えるというより苦笑い、見ていて恥ずかしいという方が大きかった。そうは言っても、ドイツ人は陽気で愉快であった。寝る間も惜しんで楽しく夜遅くまで会話した。基本的な感覚や、考えは似たようなものだったので気がよくあった。基本的には真面目で、勤勉だった。個人的には、もっとドイツと日本の交流が増えてほしいと思う。感性が似ていると思うので、交流が増えれば、日本とドイツはもっと親密な感性を築けると思う。僕は実際キルシュバウム家とは仲良くなれたし、気分としてはドイツにもう一つ家族が出来た感じだ。僕はこの鳥栖ツァイツ子供交流事業に参加できて非常によかったと思っている。僕個人としてキルシュバウム家とはなかなか良好な関係が続いているし、世界に友達が増えた。将来はもっと英語をはなせるようになって、ドイツ語も話せるようになって、ドイツそしてヨーロッパと日本をつなぐようなことが出来たらいいなと思う。この企画に関わった全ての人に感謝します。

日記

日時：平成22年（2010年） 8月 8日 （日曜日） 天気：はれ

■今日の日程■

ホストファミリー宅への移動
福岡空港 → インチョン空港（大韓航空）
インチョン空港 → フランクフルト空港（ルフトハンザ航空）
フランクフルト空港 → ライプツィヒ空港（ルフトハンザ航空）
ライプツィヒ空港→ホストファミリーの家庭へ

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

とにかく大変な1日だった。飛行機を2回乗りかえて行った。
ホストファミリー宅に着いたのは、現地時間で24時過ぎだった。
とても長い移動だったが、“ヨウコソ ツァイツへ”の文字を見た時の思いは、言葉にできないものがあった。ホストファミリーは、とてもいい人たちで温かく僕を受け入れてくれた。様々な不安もあったが、大丈夫だと思えたほどだった。

ドイツの夏は少しばかり寒かった。ホストファミリーによると、先々週くらいは暑かったらしいが、どうやら気温が下がってきたようだということだった。日本の秋くらいの気温で、とても過ごしやすそうだった。町はよさそうだった。これからいろいろ見てみようと思う。今日は本当に疲れた。

担当：藤光祐輔

日時：平成22年（2010年） 8月 9日 （月曜日） 天気：くもり

■今日の日程■

市長への挨拶
市庁舎見学
ホストファミリーとボウリング

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

我々が案内された市庁舎は、僕が想像していたものよりはるかに美しく、威厳に満ちあふれた建物だった。市内で一番古いというだけあって、石造りの外装には長い時を耐えぬいてきた力強さがあり、圧倒されてしまった。

最初に入ったのは『Friedenssaal』、平和の間という意味の部屋で、市長やその他のドイツの方々に挨拶をした。歌やダンスといった出し物も用意されていて、温かい歓迎だった。そのお礼をしようと、自己紹介の時に日本語でいろいろと言おうとしたのだが、立ち上がった時にセリフが飛んでしま、恥をかいただけで終わった。我ながら情けない。

その後、ツァイツ市を一望できる市庁舎の塔に登った。あやふやな記憶だが、階段は全部で250段だった。市庁舎が丘の頂上あたりに立っているとはいえ、52メートルの塔に登れば市全体が見わたせてしまうのだ。小さい町だ。けれど、この町の人たちは少なからず自分たちの町に誇りをもっているように思えた。

余談だが、『Friedenssaal』の壁には大きな絵が描かれていた。個人的な印象だが、地獄っぽい絵だったと思う。「平和の間」なのに。

その後、ステイ先の家族みんなでボウリング場へ行き、手首が壊れるまで玉を投げた。詳しく言うと、遊んだのはボウリングではなく、ひとまわり小さな玉を手で掴んでころがすものだった。

担当：西山直希

日時:平成22年(2010年) 8月 10日 (火曜日)　　天気:はれ

(撮影:西山直希)

■今日の日程■

レーベックセンターの見学
モーリツブルグ城の見学
「騎士の食事」～中世のドイツの食事～
大聖堂の見学とパイプオルガンの演奏
モーリツブルグ城内公園と日本庭園の見学

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

Ding-Dong-Ding-Dong…Don…パシッ……朝か。6:50、うん余裕。着替え終わった頃に、丁度 Franzi のねぇちゃんが来た。「Shun, Morgen!! 起きてる？ご飯だよ。(以下、Englisch)」キッチンへ。すでに、朝ごはんが準備してあった。「コーヒー飲む？」【Ja!】……{待て待てぃ。このお兄さん誰だよ？(焦)落ち着け、俺……誰だ、この人？？？？？}「名前は何?」【Shun, and you?】「Marco」{誰だ??}{でも、まぁいいやーーーーいただきます}という感じ。ネタばれすると、Franzi の姉貴の彼氏。むっちゃくちゃいい人。{朝っぱらから、話のネタができたww。}でも、その二人が、いちゃついてるのを横目で見ながら、朝ごはんを食べるのは辛かった。パパとママは仕事。Franzi は学校。なので、三人だけ。{気まずっ。}二人は、頑張って英語で話しかけてくるけど、ch が s になってて、かなり聞き取りづらいし、元々、英語は苦手。∴早速地獄。

集合場所に2分遅れで到着。こちらの人は、遅れそうでも、あんまり急ぐ気は無いみたい。{文化の違い～w}結局、一人で焦ってたケド、最後じゃなかった。(最後から三番目やった。)

そこから歩きで、版画について展示してある所へ。版画は、確かに凄かった。{Zeitz で生まれただけやろ}と、内心思いながら見てた。その後の版画を作るのは、かなり楽しかった。版画を作るといっても、好きな文字を抜き出して並べてインクを塗ってペタって、完成。皆さん思い思いのことを書いておりました。○★○×▲とか○★○※○とか。(自主規制)みんな、日付を入れて思い出の一品となりました。

ここで、なぜか乳母車の見学。{WHY～～？}「あまり、知られていませんが、初めて乳母車を作った会社は、Zeitz にあったのです。」{Σ(@◇@)!}確かに驚いた。でも、

今はその会社はなかった。をいをい。……デジャヴ！日本で言うなら、久光スプリングス。＜鳥栖と神戸のダブルホームとか言ってるくせに、鳥栖では一年に1,2回しか試合はない。まぢ、楽しみにしてるのに……わかりにくい例えでごめんなさい。でも、共感してくれる人がいることを祈ります。＞

次は、弓矢ゲーム。これを聞いた時はどんなゲームかと想像してみて、アーチェリー的なものかなと、思っていたが実際は、ボウガンの玩具ver.てきな。{どこが弓矢だよw}と、若干萎えた。でも、おばちゃんが「このゲームで一番になった人には、お楽しみがあるよ」って。やる気スイッチ全開。――――やる気スイッチ全壊。燃え尽きた。なんか勝った。{自慢かい(焦)}自分で突っ込んだけど、結構嬉しかった。

てなわけで、ご褒美(?)として、侯爵デス。侯爵いいね。服は、そんなに良くなかったケド。(チャイナドレスっぽい?)優越感ていうか、なんていうか……GOOD！！他の人に無茶振りしていいし、席はセンターだし。満喫しました。ところで、中世ヨーロッパの人は、手掴みで食べていたらしい。∴手掴みで食った。(新感覚！)肉はおいしかった、でも生のニンジンには驚かされた。食べた。予想通りの味…うん。{二回目は無いかな。}

近くの教会に行った。近くだからといって侮るなかれ。バカでかいパイプオルガンが二台。しかも、一つはオリジナル。思ったより凄い所。で、そこにいたオジサンも。{ただの案内してくれる人かと思いきや}＜彼は崖のようなパイプオルガンの前に一人。どうやら、パイプオルガンは彼を拒んでいるらしい。戦士どうしの睨み合いは続く――――――時は来た。彼は彼を受け入れたようだった。そして、彼は優しく彼の上に手を置いた。すると、彼と彼は一つになり、この世の悪行全てがひれ伏すかのようなすばらしき音色を解き放ちながら、彼らとなっていったのだった。＞(←自己満デス。気にしないで。)結局、そのおじさんの演奏が物凄かったということ。これは本当！

モーリツブルク城見学…お庭の見学。ホストファミリーと一緒に。そこで、吉野のホストファミリーのBoyのヨーナスとフレンドリーに。男どうしの方が気楽だよ。＜By男子校生＞モーリツブルク城をバックに、水堀(?)の前からの景色はスゴイ綺麗だった。日本庭園ねぇ。{日本で見ればいいよ。}でも、遠く離れた異国の地に和風な空間が出現しているのは、少し感動した。

今日一日、かなり充実していて楽しかった。

まとめ：版画は完成して嬉しかったなぁ。ヨーナスかわゆ～。侯爵万歳。

注：偏った人格の筆者の偏見に基づいて書かれております。ご注意ください。

担当：廣田駿介

日時:平成22年(2010年) 8月 11日 (水曜日)　　天気:はれ

■今日の日程■

エンツマン社訪問
ブロッホヴィッツ社訪問
地下ツァイツの見学
カヌー協会の見学

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

今日は、エンツマン社とブロッホヴィッツ社へ行った。
○○社って書いてあったから大きなビルを想像していたら、そんなに大きな建物ではなかった。

エンツマン社は人形やコップ、トロフィーなどを売っていて、金属とかに絵や文字をほっていくのが仕事みたいだった。みんな1人ずつキーホルダーに自分のイニシャルを彫って、庭でおやつタイム。大量のハチが集まってきていて、みんなハチとたたかいながらドーナツを食べていた。

その後、ブロッホヴィッツ社に行って、地下ツァイツの見学もした。地下はとても涼しく、天井が低かった。しょっちゅうヘルメットがガリッ！という音をたてて壁をけずっていた。

そのあと、カヌー協会へ。僕はカヌーに2回のったのだが、船のうしろにドイツBoyがいるのといないのでは大違い！2回目はさんざん蛇行したあげく、後ろ向きでゴール。水びたしになってしまった。でも、一日楽しかった！

担当:吉野正剛

日時:平成22年(2010年) 8月 12日 (木曜日)　　天気:あめ

■今日の日程■

ハレ市へ
博物館
動物園(中止)
ショッピング

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

今日はせっかくのハレ市なのに、雨だった。そのため、動物園は行けなかった。ドイツで初の路面電車！！乗り心地は･･･最悪だった。人が多く、雨で床がすべりやすかったので、みんな辛そうだった。私は酔って気分が悪かった。けど、到着した場所は私好みの古い建造物が立ち並んでいた。晴れている時に行きたかった･･･。

博物館ではネブラの天体盤を見る事ができた。博物館ということで、みんな少し眠そうだった。ネブラの天体盤は最後に説明があったので印象に残っている。マンモスの模型が中央にあり、すごい迫力だった。

ハレ市では自由行動だった。雨だったからショッピングも少し面倒くさかった。私は女子2人とタンヤと自由行動を楽しんだ。タンヤが靴を買っていて、すごく似合っていたし、かわいかった。私は･･･鉛筆を買った。ずっと欲しかったドイツのステラーの鉛筆！！この鉛筆･･･灰色がきれいなんだ！！

私はせっかくのハレ市でのショッピングなのに、鉛筆しか買わなかった。けど、楽しかった。常にカッコイイ街並みが広がっていて、デジカメが手放せなかった。写真はいっぱい取れたので満足した☆

担当:松雪晴香

日時：平成22年（2010年） 8月 13日 （金曜日） 天気：くもり・あめ・くもり

■今日の日程■

修道院の見学
ワイン畑の見学、ヘーリッヒさんと料理（昼食）
ドイツの学生たちと一緒にゲーム
キャンプファイヤー

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

今日は、まず最初に修道院に行った。修道院へ向かう道は、とても草がはえているのぼり坂だったので、ジーパンで来ればよかったと思った。修道院から見える景色は、ツァイツの町が見る事ができて、とてもきれいだった。

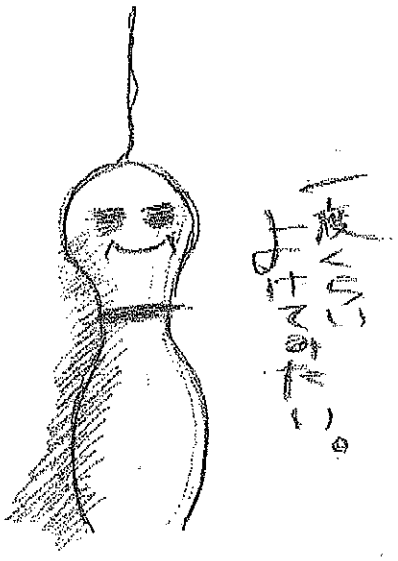
その後、ナメクジのいる道を通って、ヘーリッヒさんのぶどう畑に行った。そこで、料理を作ったのですが、その時にヘーリッヒさんの奥さんが「男の子がやったら？」と言ってくれたので、料理は男子に任せて、女子3人はずっとテーブルに座って、しゃべりまくっていた。そのうちに、男子がスープをお皿についで、もってきてくれた。なんか、ありがとうって感じだった。スープはとても温かかったので、久しぶりに温かい料理をたべれてとてもおいしかった。食べ終わった後、ヘーリッヒさんが、ぶどう畑を案内してくれた。そのぶどう畑が、誰によって管理されているのか、どのくらいで熟すのかを知る事ができて勉強になった。

その後、青少年の家に行き、ホームステイの子と、鳥栖のみんなでビリヤードをしたり、バレーボールしたり卓球をしたりして、とても楽しかった。ピザを作って食べたり、キャンプファイヤーでなんか落ちている木に、パン生地みたいなものをまきつけてキャンプファイヤーの火の中に入れて焼いて食べたりもした。さすがに私は木を洗いました。

今日は本当に充実した1日で楽しかった。

担当：古賀鈴乃

日時:平成22年(2010年) 8月 14日 (土曜日)　　天気:くもり



■今日の日程■

ホストファミリーの企画
ボウリングバーへ・・・

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

今日は、家族とクリスチャンのいとこと、夜の7時半くらいからツァイツ市にあるボウリングバーへ行った。そこで、夕飯をすませ2時間ほどボウリングをしたのだが、そこのお店の雰囲気がとても良かった。一言で表すと「大人」である。250年という長い歴史を歩んできたその店内は、ほとんどが木でできており、電球の光は弱く、窓も少ないためか、中はうす暗かった。また、上を見ると天井が見えないほどしきつめられてはってある古い新聞紙やお札。カウンターにはたくさんのワイン。テーブルの上には、唯一手元を照らしてくれるキャンドル。ずっときょろきょろして店の全てを楽しんだ。いかにもヨーロッパという雰囲気を持つこのお店は、すぐに好きになった。

さらに周りが暗くなると、空いていたテーブルにはお酒を片手に陽気に語る大人でいっぱいになっていった。このようなお店に私は出会えた！この歳で出会えた！「語る」への考えが大きく変わったのが、まだ15歳であることに喜びを感じる。

今回は、残念ながらドイツ語が理解できなかったため、いとこの笑い話に参加できなかったが、次は自分で「語る」にふさわしい店を見つけて、つきあいの長い友達を誘い、赤面で何時間も一つのテーブルを囲んでみたい。

うん、いい目標ができた。

担当:池部雅人

日時:平成22年(2010年) 8月 15日 (日曜日)　　天気:くもり

■今日の日程■

ホストファミリーの企画
ベルリンへ

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

朝、目覚まし時計が鳴ったのは 6 時。車に乗り込んで出発したのが、7 時チョイ過ぎ。心地よい振動の中で、睡魔と闘っていると Zeitz の駅に到着。詳しいことは聞かずに電車へ。一時間弱でライプツィヒに。乗り継ぎの関係かなんかで駅構内の Mac で朝食。のんびりする暇もなく再び電車へ。さっきの電車の中では、それなりに話してたケド話すことも無くなり、睡魔に無条件降伏。(ちなみに席は、四人の BOX シート二つにパパ&ママと Franzi&俺)目が覚めると電車が減速していて、次の駅で降りるらしい。降りたはいいが、また乗り継ぎ。いつになったら着くのかも知らないでまた乗る。その電車では、隣に日本人のグループが。土日で話した久々の日本語。しかし、またもや夢の世界へ。

気がつくと、大きな駅に着くところ。ここで、ベルリンに着いたのだと確信。駅が地下 5 階くらいまであって、都会の雰囲気。駅で、Franzi の従兄の彼女と合流。彼女は、ベルリンに住んでいるらしく英語もできるので、今日一日案内してくれるとのこと。

駅の正面からでると、いきなり川を下る遊覧船と政府のオフィスとの 2 ショット。なんか、辞書片手に説明してくれてます。やっと英語が使えて嬉しい俺。そして、おおきな迫力のある建物の前に来た。ドイツの帝国議会だって。そこには長蛇の列が。入るかどうか聞いてきたが、その待ち時間を想定してパス。今度は、道路の中にベルリンの壁の跡が残っている場所へ。そこを辿っていくと、ブランデンブルク門に着いた。これが、あの有名なブランデンブルク門かぁ～と感動。

徒歩で、ベルリンの壁が残っているところに。行く途中で、古賀さんと遭遇。休日に行くところなんて限られるよね～。ベルリンの壁では歴史を感じた、ような気がする。はっきり言って、落書きとかガムがくっついてて、きたなかった。

昼食。パスタ。

Franzi の従兄と合流。そして、300 メートルもあるテレビ塔に行った。でも、東京タワーの方が高いよな、なんて思わなかったョ。諸事情あったらしく、上れんで悲しかった。

世界標準時の時計の所へ。これがあの……古賀さんと遭遇。また会った。よく会うねぇ～と。で、標準時の時計は、世界中の時間が一目でわかるようになっていて、東京は、22 時半だった。

次は、お土産屋へ。ベルリンのお土産がたくさんあって嬉しー。どれを買……古賀さんと遭遇。三度目。もうお互いに苦笑。ここで、疑問が、二度あることは三度ある。三度会あったことはどうなるのだろう？と、ふと思った。

お土産を買って、駅へ。まぁ、S バーンです。S バーンを乗り継いで、電車の駅に到着。あとは、帰るだけ。

何か所か省いてるケド、こんな感じの休日でした。　　担当:廣田駿介

日時:平成22年(2010年) 8月 16日 (月曜日)　　天気:雨のち晴

■今日の日程■

幼稚園訪問
小学校訪問
昼食(小学校にて)
職業学校訪問
市民大学訪問

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

今日は、学校関係の施設を訪問した。

幼稚園では、とても小さい子ども達と一緒に遊んだ。幼稚園生は、「こんな事で楽しいのか」と僕たちが思うような遊びでも、本当に楽しそうにして遊んでいた。途中でおやつ的な物をいただいたが、チーズ＋マスカット＋チーズという変な組み合わせだった。飲み物も、普通の紅茶ではなくて、キシリトールを水に溶かしたような飲み物だった。あんまり好きではなかった。

小学校では3年生の教室に行って折り紙をした。「鶴」を教えたけど、ドイツの小学3年生にはちょっと難しかった。でも、それはそれで楽しかった。

昼食のパスタはとてもおいしかったけど、夕食もパスタだった。職業学校は興味深いものがたくさんあったが、ちょっとつまらなかった。

市民大学は、お茶も飲めたし、チョコも食べたし、何かを作ったし最高だった。今日1日は歩きすぎて、とても疲れた。

担当:岡本佳希

日時:平成22年(2010年) 8月 17日 (火曜日)　　天気:あめ・くもり

■今日の日程■

ワイマール市へ
ブーヘンヴァルト強制収容所
ワイマール市内見学
ゲーテの家(博物館)

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

強制収容所は、とてもつらい気持ちになった。僕は、広島・長崎の原爆資料館に行ったことがあるけれど、その2つに行った時と同じような気持ちになった。また、強制収容所の方は原爆のように一瞬で無差別多量殺人でなく、ユダヤ人や政治的な思想で違う考えを持つ人などをむごいやり方で殺していった。僕は、話でここの事を聞いていたが、実際に目で見てとてもつらくなった。

ワイマール市内にあるゲーテの家にも行った。普通の通りの片隅にあったのでびっくりした。ゲーテという人物は知っていたが、具体的には知らなかった。ゲーテについて説明している人の話を聞きながら見学した。とても分かりやすく、展示物とかもすごかったので楽しかった。

自由行動では、書店に行った。全部ドイツ語や英語で難しかったけど、日本のマンガやきれいなカレンダーなどもたくさんあって楽しかった。

担当:名和長高

日時:平成22年(2010年) 8月 18日 (水曜日)　　天気:はれ

■今日の日程■

ホストファミリーの生徒と学校訪問
帰宅後、ドライブへ

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

朝7時に家を出て、車で学校へ行った。「朝、早いな～」と思ったけれど、近所の子はバスで行くので、もっと早かった。

吉野君と同じ学校で、岡本君と同じクラスだったので、安心できた。そこの学校は、1クラス25人ぐらいで、日本と同じように教科によって先生がかわっていた。けれど、担任の先生らしき人はいなかった。また、授業は90分×3で、1つの授業が長かった。ホームルームと掃除の時間がなかったので驚いた！

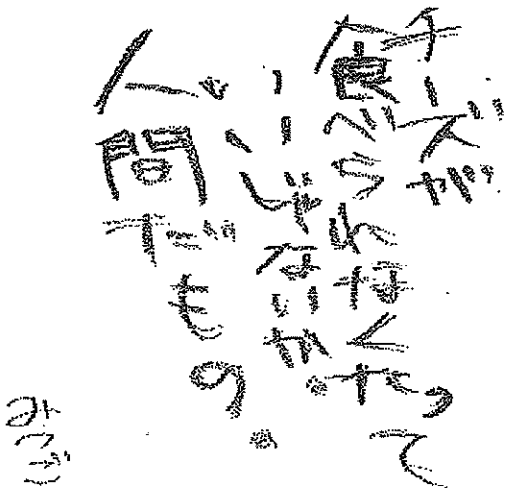
昼休みは、外でサッカーをしていた人もいたが、1番多かったのが日向ぼっこだった。日本人3人も集まり、昼休みに日向ぼっこをしながら、おしゃべりをした。気がついたら、周りにたくさんの人が集まっていて、とても楽しかった。学校は13時30分ぐらいで終わった。

放課後、ホストブラザーの車でドライブに行った。緑がとてもきれいだったけれど、朝からの疲れがいっきにでて、眠くなった。

日本に帰る日まで、残り4日。悔いが残らないようにがんばりたい

担当:福光千晶

日時:平成22年(2010年) 8月 19日 (木曜日)　　天気:はれ



■今日の日程■

風車の見学
ダニチーズの見学
帰宅後、髪を切る

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

私は、以前からチーズやバターというものが嫌いで、そのままチーズ単品をかぶりつくなんてありえない。しかし、今日のダニチーズを食べて、考えが変わるかもしれない。これからはチーズが大好き！なんて言えるかもしれない。NEW 池部になれるかもしれない！とかなり前から、こそこそとわくわくしていた。しかし、現実は厳しいー。

まず、女性陣がダニの見学を行い、それを待っている間に食べたバターでノックダウン。そして、虫が大嫌いな私に大量のダニが迎えてくれて・・・本当に帰りたかった。ただ、不思議なことに、皆「おいしー」と言って食べているのを見ると、「あれ？実はおいしいのでは？」とか、「まだまだ私は子供なのでは？」という考えがでてきて、勢いでなんとか食べてみた。感想は、とても濃く、思ったほどくさくなくて、おもしろいというか、なんというか・・・。嘘をつかずに言えば、私は苦手な味でしたー。無理でしたー。本当に帰りたかったです。

消化されるダニ、体にとても良いダニと言えども、嫌いな虫が体に入ってきたと考えると、鳥肌がぶわっと。また、すごい落ち込んでいる私に皆はリンゴをくれたり、飲み物をくれたりと、とても優しくしてくれたので、なんていい人達なんだ！と思ったら、次はダニチーズを触った手を私に近づけてきた。笑顔で。故意に。

何がしたいんだろうね。いじめたかったんだろうね、絶対。今日から皆に優しくしてもらうためにも、日頃の行いを改めます。いい子になります。NEW 池部になります。

担当:池部雅人

日時：平成22年（2010年） 8月 20日 （金曜日） 天気：はれ

■今日の日程■

パントマイム体験
送別会の出し物の練習
送別会

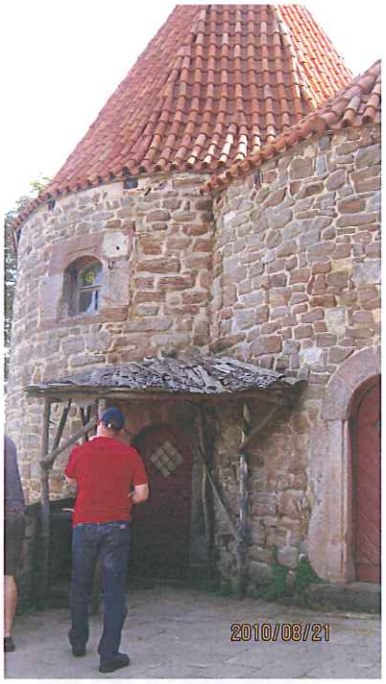
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

この日はまずパントマイムの体験から始まった。自分を動きで表現するのは、顔から火が出るほど、恥ずかしかった。しかも、結構長かった。みんなの前でパントマイムをやることは、「恥ずかしすぎる、いっそ殺してくれ」と言いたくなるほどだったし、なにしろセンスもくそもないような演技だった。恥ずかしかったのはみんなも同じだったと信じたい。パントマイムレッスンの休憩時間に、「男バカ7人組（仮）」によって「バカ」と「トス」の人文字を作った。楽しかった。

そして、今日は送迎会だった。みんなが集まってパーティーだった。僕たちの出し物はうまくいったと思うが、みなさんすいません、MC ミスりました。でもハンドベルとかはうまくいった・・・・と思う。みんなで写真撮影をして、ご飯を食べて、遊んで楽しかった。すごいなと個人的に思ったのは、言葉も文化も違うのに楽しく過ごせたと言うこと。使う言葉は「アヤ〇―」×2と「アハッーハァ」と「カッメー」「人の名前―」位だったと思う。うん、すごい。名和くんと岡本くんのネタ「カッメー」は大盛況。個人的には西山くんの連続パンチをする「右手が消えて見える」というネタも面白かった。本人曰く、最高のギャグらしい（詳しくは本人まで）。でも、ドイツ人みんなに英語が通じるわけではないし、ましてや日本語は通じないのでドイツ人にはわからなかったようだった。今日は本当に楽しかった。

担当：藤光祐輔

日時:平成22年(2010年) 8月 21日 (土曜日)　　天気:はれ



■今日の日程■

ホストファミリーの企画
ビスケット工場
博物館
ピクニック

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

朝9時30分から、ビスケット工場へ行った。車で2時間ぐらいでついた。見学ではなく、チョコレートやクッキーをたくさん買った。試食もたくさんあり、どれもおいしかった。

お昼ぐらいに景色のきれいな博物館に行った。昔の人形や楽器など色々なものがあった。また、147段ある塔にものぼった。とても、きつかったけれど、のぼった後の景色は最高だった。その後、山を少しのぼり緑のきれいな場所でサンドイッチやお菓子を食べた。風がとても気持ち良かった。

ホストファーザーの両親の家に行った。お別れパーティーみたいなのをしてもらい、手作りのケーキを食べた。とてもおいしかった。家の庭がとても広く、きれいで驚いた。そこで、逆立ちの練習やおしゃべりをした。お茶を準備していただいてうれしかった。ホストファーザーの両親もすごく優しく私に接してくれた。別れるのが、とてもさみしかった。

明日は、ホストファミリーとの別れもあるので、もっと悲しくなると思う。

担当:福光千晶

日時：平成22年（2010年） 8月 22日 （日曜日） 天気：はれ

■今日の日程■

ライプツィヒ空港
⇒フランクフルト空港
⇒仁川空港 ⇒JAPANへ

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

今日でドイツ生活はラスト。
朝は早めに起きてアニカ、ヨーナスとずっと話しをしていた。
昼食に日本から持ってきたサトウのごはんをみんなで食べて、
ライプツィヒ空港へ出発！

高速道路でダリオ家の車と会ってびっくり！

空港につくとお別れタイム。
2週間が思っていたよりもずっと短くて、日本に帰るんだという実感が無かったが、
アニカが泣いているのを見ると寂しさがこみ上げてきた。
今から来年が楽しみだ。

担当：吉野正剛

日時：平成22年（2010年） 8月 23日 （水曜日） 天気：はれ

■今日の日程■

飛行機の旅
市役所での解団式

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

非常に長かった。全身を覆うように広がる気だるさと、エコノミー症候群。座席のテーブルがどうやっても戻らずに悪戦苦闘。十時間以上という長さのフライトは、僕の心と体を予想以上に追いつめた。

ドイツは最高に楽しかったし、得るものもあった。実に充実した2週間だった。しかし、楽しい日々も終わりは来る。一抹の寂しさと、家に帰ることへの安心感という、矛盾した感情を抱えてたどり着いた福岡空港。

そこで僕たちを待っていたのは、日本に帰ったという安堵を簡単に吹き飛ばすほどの暑さだった。

空港の自動ドアが招き入れたサウナのような熱風、僕は思わずこう洩らしていた。「こりゃあ、人が住む所じゃないな。」、息を吸うことをためらってしまうほどの湿気と、排気ガスの悪臭。そして何より暑い。

すいませんが、本当にこう思いました。

その後、バスで市役所まで行き、一人一人挨拶を述べて解団。二週間だけだけど、僕は確かにリーダーだったんだ。誰かに「リーダー」なんて呼ばれたのは初めてだったから本当はすごく嬉しかった。みんなありがとう。最高の思い出です。そして、僕らをドイツに連れていってくれた鳥栖市民のみなさん、あなたがたのおかげで僕らは素晴らしい経験が出来ました。ありがとう。

担当：西山直希

Shimai toshi Zeitz

houmon no Omoide

(2010 nen 8 gatsu 8 ka – 8 gatsu 22 nichi)